

至誠館大学

科目名	幼児理解の理論と方法			コード			
英語表記							
担当教員名	山口季音・安永正夫			年度	平成28年度		
基準年次	1年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
この授業では、観察方法や記録の取り方を学びます。ビデオ視聴はもちろんのこと、実際の保育現場にも出かけ、幼児の言動を記録すると共に、それについて議論します。幼児理解の重要性に気づき、観察能力を高めることを目的としています。							
到達目標							
①観察の意義について理解する ②様々な観察方法と記録の取り方について知る ③幼児の言動の意味について推察することができる							
授業計画							
第1回	オリエンテーション：授業概要について						
第2回	観察の方法と記録について						
第3回	ビデオ視聴による観察記録をとる						
第4回	観察におけるマナー						
第5回	各自の観察記録についての意見交換の視点						
第6回	観察実習①（幼稚園）						
第7回	観察実習①（幼稚園）						
第8回	観察記録の発表とフィードバック						
第9回	記録の書き方のフィードバック						
第10回	観察実習②（保育所）						
第11回	観察実習②（保育所）						
第12回	フィードバック①						
第13回	フィードバック②						
第14回	指導に生かす幼児理解						
第15回	まとめ						
評価方法と基準			評価項目と割合（％）				
授業態度、レポートおよび観察記録の書き方等総合的に判断する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30		40	30
授業外学習			テキスト、教材				
配布資料や講義の内容を復習することが望ましい。			なし。適宜必要な資料を配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
今井和子編著『保育を変える 記録の書き方 評価の仕方』ひとなる書房、2009年。							
キーワード							
観察, 記録, 幼児理解							